報告

昭和六十一年度大会の概況　日本思想史学会昭和六十一年度大会は、十月二十五日（土）・十月二十六日（日）の二日間にわたり、東北大学を会場として開催された。

第一日は、主題講演が行われた。講演者と演題は次の通りである。

『過渡期の思想』

無住について　東京女子大学教授　大隅和雄氏

幕末三明君における藩と天下　九州大学教授　山口宗之氏

講演終了後、総会が行われ、事務局より昭和六十年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて事務局より昭和六十一年度事業計画および予算案が提案され、審議の結果、それぞれ事務局案通り決定された。

引き続き、杜仙荘において懇親会が催された。

第二日は、研究発表が行われた。発表者は次の諸氏である。

1、初期の蕃山学と岡山藩政　東北大学大学院　荻生茂博
2、三宅尚斎の太極観に関する一考察　筑波大学大学院　早川雅子
3、皆川淇園における物に遇うこと　帝国女子短期大学　藤本雅彦
4、日本考証学派の民衆観　筑波大学大学院　小林幸夫
5、空海・道元の三昧観　仙台工業高等学校　加藤健一
6、道元の時間論　東京大学大学院　頼住光子
7、道元における自然観　同志社大学大学院　半田栄一
8、天台浄土教における上品上生観と衆生済度精神　東京農業大学　岩田茂樹
9、旧事大成経に関する一考察　淑徳短期大学　小笠原春夫
10、大隈言道の歌と思想　皇学館大学大学院　渡部治
11、松浦武四郎に於ける精神的変遷とその生涯区画――特に署名変化を通して　大山晋吾
12、横井小楠の学統についての一考察　大阪大学大学院　楢原孝俊
13、横井小楠の新国家像　岩手大学　ハムザ・イサム
14、「敬天愛人」考　東海大学　藤原暹
15、小野梓の理想国家論と自由民権思想　沢大洋
16、行忠・常昌・家行の元神観の比較　東北大学大学院　小山憲子
17、虎関師練の思想　東京大学大学院　市川浩史
18、世阿弥能芸論にみる「申楽延年」の構造　東北大学大学院　吉村均
19、心敬の思想――心の「艶」の本質――　同志社大学　菅基久子
20、室生寺と竜穴神――室生寺の神宮寺的性格――　竹居明男